

堀部安兵衛武庸 生誕地新発田

SHIBATA: The birth place of TAKETSUNE YASUBE HORIBE.

Birth is special because it's the first encounter with your life.
And the countless number of meetings and partings follow our lives.
We shall celebrate every encounter as a fresh and a new one.

人間、安兵衛が大切にしたこと……。それは生誕の地・新発田に秘められている。

安兵衛ものがたり 画ノいにしへ絵師 綾音 YASUBE HORIBE STORY



1670(寛文10)年5月、
新発田外ヶ輪の
中山家に生まれる。
新発田藩士・中山弥次右衛門の長男として誕生。産後まもなく、母親は亡くなる。母方の祖母は、初代藩主溝口秀勝侯の娘、糸姫。つまり、安兵衛は秀勝侯のひ孫にあたる。

1683(天和3)年

14歳のとき、父・弥次右衛門が溝口家を追われて浪人となり、その後まもなく死去。



1688(元禄元)年、
十九歳、新発田を発つ。
江戸へ上り、堀内道場に入門して剣術を学ぶ。天性の才能ですぐに頭角をあらわし、師範代を務める。やがて、堀内道場の免許皆伝となった。



1694(元禄7)年
2月11日、
高田馬場の決闘
義理の叔父菅野六郎左衛門が果し合いをすることを知った安兵衛は、高田馬場へと同行し、助太刀をして相手方3人を斬り倒す。この活躍が、江戸で大評判となった。

同年6月、堀部家へ婿養子に

赤穂藩士・堀部弥兵衛に請われ、その娘きちと結婚。堀部姓となる。

1701(元禄14)年3月14日、刃傷「松の廊下」事件

赤穂藩主・浅野内匠頭が江戸城「松の廊下」で吉良上野介に斬りかかり、切腹を命じられる。浅野家はお取りつぶしに。



1702(元禄15)年
12月14日、
吉良邸に討ち入り
大石内蔵助率いる赤穂四十七士が吉良邸へ討ち入り。安兵衛は裏門から突入し、大太刀を持って奮戦。吉良を討ち取った四十七士は、泉岳寺の浅野内匠頭の墓前に報告した。

1703(元禄16)年2月4日、安兵衛、切腹。

幕府より切腹が命じられる。享年、34歳。

武庸会 会員募集中

堀部安兵衛武庸の武勇を語り継ぐ武庸会では、会員を募集しています。

企画／武庸会

発行／一般社団法人 新発田市観光協会

☎0254-26-6789(8:30~17:30)

<https://shibata-info.jp/>



中山安兵衛應庸

NAKAYAMA YASUBE MASATSUNE

堀部安兵衛の肖像

一 中山安兵衛の生まれと育ち

堀部安兵衛は新発田五万石城主・溝口信濃守宣広(元禄の後、次の將軍家宣の宣の字を憚って重雄と改名)の馬廻り役200石の家臣、中山弥次右衛門の長男として、寛文10(1670)年に生まれた。父には先妻ちよが居り、ちよが生んだ姉きんと、安兵衛の母い(仮称)が生んださち(仮称)の姉二人が居た。安兵衛の母い(仮称)は安兵衛を生んだ後、間もなく没したので、安兵衛は初代藩主の五女である、外祖母系姫に育てられたが、その祖母の没後は父と姉によって育てられた。

安兵衛が14歳の天和3(1683)年、父は新発田城辰巳櫓の失火の罪を得て、禄を召し上げられた。浪人となった父は、間もなく失意の中に没してしまった。その後、安兵衛は外祖父溝口四郎兵衛に引き取られ、寄食したが、この外祖父も没する。

その後、叔父の家で肩身狭く暮らすことを嫌い、出奔して姉きんが嫁いでいた、牛崎の豪農長井弥五左衛門家に寄食した。この長井家は初代藩主秀勝公の奥方の生家であり、奥方の弟清左衛門は、新発田城の縄張りをしたとされる名家である。

この長井家の分家である新発田藩戸頭の大庄屋長井三郎左衛門家に、安兵衛が遊びに行った時、三郎左衛門の妻の弟である、佐藤條右衛門と知り合った。この條右衛門は、小須戸の大庄屋坂井家の出であるが、外祖父の佐藤家の養子となっていた。安兵衛は條右衛門とは親しく付き合い、お互いに従兄弟の盟約まで結び、刎頸の友となり、形見分けもしている。

二 安兵衛の出府と高田馬場の決闘

安兵衛が19歳の元禄元(1688)年、青雲の志を持ち江戸へ出た。増上寺近くの麻布切通し辺に住み、手習師匠などをして暮らしていた。この出府当初から、近所の飯倉四ツ辻で両替商などをしていて、商人深山伊兵衛と知り合いになり、吉良邸討入り当日の暇乞状がある程、親しく交際した。

元禄4(1691)年頃、安兵衛は牛込元天龍寺竹町に移り、旗本の徒頭福生七郎右衛門に中小姓として仕え、牛天神下の堀内源左衛門の剣道場に通って修行し、免許皆伝となった。

堀内道場の同門には、側用人柳沢吉保の儒臣となった細井広沢、赤穂藩主・浅野内匠頭家来奥田孫太夫(免許皆伝)、西条藩主・松平左京大夫頼純の家臣菅野六郎左衛門等が居り、安兵衛が切腹して果てるまで、一生親しく付き合った。

菅野とは安兵衛は特に親しく、叔父・甥の盟約まで結んでいる。この菅野が同じ藩の村上庄左衛門と喧嘩になり、元禄7(1694)年2月11日、高田馬場で決闘することとなった。安兵衛はこの決闘で菅野に助太刀し、見事相手の村上等3人を斬り勝利したが、菅野はこの決闘の傷がもとで間もなく死亡してしまった。

三 堀部家への婿入りと内匠頭の刃傷事件

中山安兵衛は高田馬場の決闘で勝利し、江戸中で評判となった。安兵衛は赤穂藩江戸留守居役の堀部弥兵衛から、婿養子になるよう口説かれ、遂に娘きちと結婚し、中山安兵衛應庸から堀部安兵衛武庸となったのである。その3年

後、弥兵衛が隠居したので、その跡を継ぎ、浅野家の知行200石の馬廻り役となった。その後使番に出世している。

元禄14(1701)年3月14日、勅使饗応役をしていた赤穂五万石城主・浅野内匠頭長矩が、饗応指南役の高家筆頭吉良上野介義央に刃傷に及んだ。この刃傷事件により内匠頭は即日切腹となり、浅野家は改易された。この際吉良上野介はお咎めなしであり、喧嘩両成敗とはならず、片落ちの処分だった。

刃傷事件の片落ちの処分により、安兵衛は江戸詰の同僚高田軍兵衛や奥田孫太夫と共に、内匠頭の無念の思いを継ぎ、吉良の首を取ることに、命を懸けることになったのである。

安兵衛と同腹の姉さちの夫町田新五左衛門が、刃傷事件が起きた時の、大目付溝口摂津守の家臣であったこともあり、安兵衛は溝口家の切梅分家二代目で、はこの溝口摂津守とは特に懇意であった。この摂津守は内匠頭の弟大学に、刃傷事件に連座して、閉門の処分を申し付けた大目付である。

四 安兵衛が大石に吉良邸討入りを決断させる

大学を殿様にして、浅野家の御家再興を果たすことを、第一の目的とする元家老の大石内蔵助と、吉良の首を取ることを目的とする安兵衛は、ことごとく対立した。

安兵衛に同調する仲間、初めは数人しかいなかったが、次第に同志も増えてきた。そんな中で、なかなか吉良邸討入りに、踏み切らない大石内蔵助に業を煮やして、安兵衛は「大石抜き吉良邸討入り決死隊計画」を立て、元禄15(1702)6月19日に単身江戸を立ち、京都まで行き同志20名程を集め、計画を実行するばかりとなった。その上で、安兵衛は大石との膝詰め談判を行い、遂に大石に討入りを決断させた。

7月18日に、大学は閉門御免となるが、改易の上、広島浅野本家へ差し置きとなり、御家再興の望みは完全に消えた。そこで、上方では「円山会議」を開き、江戸では「深川船上会議」を開いて、吉良邸討入りを正式に同志に周知した。

以上のことから分かるように、高田馬場の決闘での勝利がなければ、安兵衛が浅野家に仕官することはなかったのであり、また安兵衛が居なければ吉良邸討入りもなかったのである。吉良邸討入りの成功がなければ、浅野内匠頭や大石内蔵助が歴史に名を留めることはなかったのである。

五 吉良邸討入りと凱旋行進

元禄15(1702)年12月14日、本所の吉良邸に討入り、見事に吉良上野介の首を取ることに成功した。その後、赤穂浪士47人は泉岳寺まで、吉良の首を掲げて「凱旋行進」をし、内匠頭の墓前にその首を供えた。この時、足軽の寺坂吉右衛門も一緒に墓参した後、大学への吉良邸討入り成功の報告のため、広島へ向かったものと思われる。

その後、寺坂と大目付仙石伯耆守に自訴した吉田忠左衛門、富森助右衛門以外の44人も仙石邸へ行き、



堀部安兵衛武庸

HORIBE YASUBE TAKETSUNE

堀部安兵衛の足跡



そこで初めて武装解除され、寺坂以外の46人は、細川越中守、松平隠岐守、毛利甲斐守、水野監物の四大名家に預けられた。この際、堀部弥兵衛は細川家、安兵衛は松平家へと、親子であるため振分けられた。

吉良上野介の命日は12月15日とされるが、その49日忌の元禄16(1703)年2月4日、赤穂浪士46人は四大名家に於てそれぞれ切腹し、その日の中に、内匠頭の眠る泉岳寺に葬られた。

2月4日、同時に吉良家は改易され、ここで初めて喧嘩両成敗は成立した。吉良邸討入りの成功なくして、喧嘩両成敗は実現し得なかったのである。安兵衛は文字通りその立役者である。[梓弓 ためしにも引け 武士の道は迷はぬ 跡と思はば]これは安兵衛の辞世の歌であり、享年は34歳であった。

六 本所の吉良邸は四面楚歌

吉良邸討入りが赤穂浪士側の一方的な勝利に終わったのは何故であろうか。もしも吉良邸が以前の江戸城曲輪呉服橋内にあったならば、吉良邸討入りなど不可能であることは明らかである。したがって、吉良邸の本所竹蔵跡の、松平登之助邸への屋敷替えが、吉良邸討入り成功の鍵である。

実は竹蔵跡の五軒の武家、牧野一学、松平登之助、土屋主税、本多孫太郎、鳥居久大夫は、全て大目付溝口摂津守の親類である。すなわち、屋敷替えに溝口摂津守が関与していた。吉良邸は「四面楚歌」だったのである。このことは従来は全く知られていなかったのである。

土屋邸では赤穂浪士の討入りを知り、吉良邸との堀際に高張提灯を掲げながら、吉良上野介を助ける等ということ、を、一切しなかった。討入りから吉良の首を取るまでの約2時間の間、邪魔が入ることもなく、討入りが完璧に成功したわけである。

吉良邸北隣の本多孫太郎は溝口摂津守の親類である外に、この邸内に住む家来の忠見扶右衛門は、堀部弥兵衛の妻わかの子であり、浅野家改易の直後、3月15日から29日まで、堀部一家はこの忠見家に居候していたのである。以上のような関係から、安兵衛が吉良邸の図面、すなわち、松平登之助邸の図面を入手していたことは当然のことだったのである。

七 足軽寺坂の目益しの真相

吉田と冨森が、泉岳寺へ向かう途中から、大目付仙石伯耆守に自訴した時、仙石伯耆守は討入りの始末を詰め、足軽の寺坂吉右衛門が討入り後姿を消したことを、不問にしたが、それが何故であるかは従来は全く分からなかった。

しかるに、浅野内匠頭の妻阿久利の従姉(内匠頭の父采女正長友のはとこでもある)が仙石伯耆守のはとこの妻であり、伯耆守は内匠頭とは重縁である。

さらに、仙石伯耆守は溝口摂津守とも重縁である。すなわち、仙石伯耆守の妹が新発田藩の池端分家の二代目溝口

左近宣鎮に嫁いでおり、この左近宣鎮は溝口摂津守の従弟である。しかも、摂津守の次男の宮内直武が、左近宣鎮の養嗣子にもなっている。このことが分かったと、大目付仙石伯耆守が、吉良邸に討入った足軽寺坂吉右衛門に、追手を指し向けもせず、目益した理由も自然と理解される。

吉良邸討入りの時、大目付仙石伯耆守は、大目付から留守居に昇進していた溝口摂津守から事前に、討入りがあることは知らされていた筈である。したがって、吉良邸討入りをした赤穂浪士が、吉良の首を掲げての泉岳寺までの、3時間にも及ぶ3里(12km)もの行程の「凱旋行進」が、幕府に鎮撫されることもなく、無事に出来たのも、当然のことだったわけである。

八 安兵衛の実子安之助は細川家に仕官

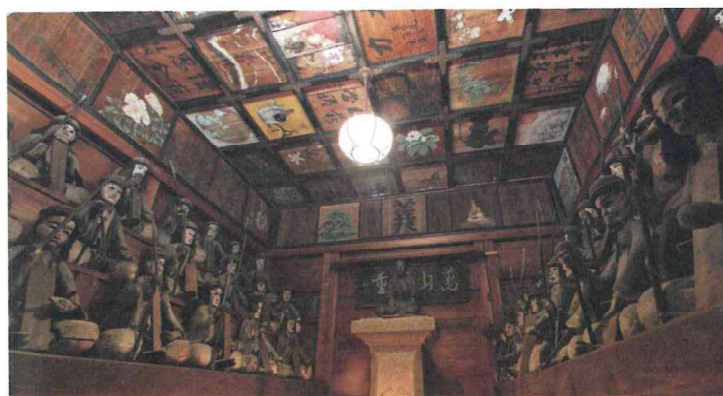
安兵衛が義兄の長井弥五左衛門に宛てた手紙の断簡に、実子安之助が7月5日に生まれたことが書いてある。しかし、その後の消息はこれまで全く分からなかった。手紙の内容から安之助は成長していれば、元禄16(1703)年には8歳程になっていたことが分かる。この安之助が後に大石等17人が預けられた、熊本藩主・細川越中守に堀部忠兵衛の名前で、知行300石の藩士に、召し抱えられていたことが分かってきた。

従来、細川家に召し抱えられた堀部忠兵衛は、堀部弥兵衛の養子になっていた、忠見文五郎であるとみなされてきた。この文五郎は忠見扶右衛門の三男で、弥兵衛の甥に当たり、安兵衛が婿に入る前から、弥兵衛の養子になっていた。

堀部弥兵衛と安兵衛は自分達が、殿様内匠頭の無念の思いを晴らすために、たとえ討首になっても何らかまわなければならないけれども、かわいい安之助にまで、そのような思いをさせることには忍びなく、それまで養子として育てていた文五郎を、実家の忠見家へ返し、安之助に文五郎への成り済ましをさせることにより、安之助を無事に生き延びさせようと、計画したものと思われる。これより、安之助は2月4日の遣児達の遠島の罪を免れていた。安之助の細川家への仕官には佐藤條右衛門も関与している。

忠兵衛こと安之助の子孫は、昭和4(1929)年の長徳寺における義士堂の建立の時までは、間違いなく熊本に居たのであるが、現在は誠に残念なことながら、行方不明となっている。1日も早く安之助の子孫が見つかることを、願わずには居られない。熊本の堀部家の情報をお持ちの方の御連絡を切に乞う。

平成29年4月 新潟大学名誉教授 冨澤信明

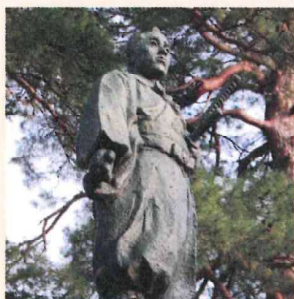


堀部安兵衛武庸 生誕地新発田 散策マップ



① 新発田城

表門・二の丸櫓橋は国指定重要文化財。安兵衛の父 弥次衛門は管理をしていた辰巳櫓の失火を理由に失脚した。日本百名城の一つ。



② 堀部安兵衛の像

赤穂義士の討ち入りで中心的な役割を果たした安兵衛。その顔はしっかりと江戸を見つめているという。



③ 安兵衛生誕の碑

1670年5月、新発田藩士中山弥次衛門の長男として出生。



④ 武庸橋

安兵衛を偲び、戦後架けられた橋(現在の橋は平成25年に架け替えが行われたもの)。



⑤ 長徳寺

安兵衛の生家中山家の菩提寺。境内には安兵衛が江戸へ発つときに植えたといわれる松の木(現在は2世)がある。1585年創建。



⑥ 義士堂 市指定文化財

安兵衛を顕彰する目的で「武庸会」が1929年に建立。赤穂四十七士の木像が収められている。天井にはめ込まれた57枚の書画の作者は元首相・若槻礼次郎や歌人・会津一など、昭和初期の著名人の名が並ぶ。



⑦ 清水園

溝口家の下屋敷として造られ、清水谷御殿とも呼ばれていた。越後新潟を代表する回遊式の大名庭園。園内には安兵衛ゆかりの品々を展示した「堀部安兵衛伝承館」がある。



⑧ 足輕長屋

新発田藩足輕が居住した八軒長屋が当時のままの姿で今も残り、歴史的にも貴重な建造物です。木造茅葺きの質素な建物は、当時の足輕たちの暮らしぶりを感じさせてくれます。



⑨ 五階菱

「王紋」やワインのような味わいをもつ「かれん」など、幅広い種類の日本酒を揃えております。コンシェルジュによる利き酒や試飲体験のほか、プロジェクションマッピングが人気です。地元みやげも豊富に扱っています。



⑩ 蔵春閣

明治45年、東京隅田川沿い大倉喜八郎別邸敷地内に建造され、令和4年に新発田市に移築されました。喜八郎と親交が深かった政財界の大物や賓客をもてなすために建てられた迎賓館です。



新発田が生んだ赤穂義士、堀部安兵衛武庸を偲び、
その人柄、功績を後世に伝える市民の会として
大正2年に武庸会は結成され平成25年に結成100周年を迎えました。
毎年、12月14日に義士祭を執り行っています。
武庸会では会員を募集しております。

会員には ○ 毎年の義士祭、命日の法要などのご案内
○ 堀部安兵衛に関する歴史資料やイベント情報の提供
などを通じて、安兵衛の顕彰活動など会の活動にご参加いただきます。

年会費
3,000円

お問い合わせ

武庸会事務局 (一社) 新発田市観光協会

〒957-0053 新発田市中央町3-2-22 松縁館ビル1階(市役所前・旧北越銀行)

TEL.0254-26-6789 FAX.0254-26-5031 ☐ kanko@shibata-info.jp

☐ 武庸会 入会申込み

年会費:3,000円

■お申込みは下記をご記入いただきFAXから

FAX 0254-26-5031

■申し込み日

月 日

氏 名	ふりがな
住 所	〒
電話番号	